

西耳鼻咽喉科 便り

一人ひとりにあった治療法を提案して、患者さんのお困りごとを解決することを目指しています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」は、レンサ球菌による感染症です。レンサ球菌は感染しても無症状なことも多く、**症状が出てもほとんどは咽頭炎（のどの炎症）や皮膚の感染症にとどまります**。しかし、まれに通常は細菌が存在しない組織（血液、筋肉、肺など）にレンサ球菌が侵入し、急激に症状が進行する重篤な疾患となることがあり、「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」と呼ばれています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、30歳以上が感染しやすく、手足の壊死などを引き起こし、最悪の場合、死に至ることがあるとされています。今年1月から3月末までに全国で556人、福岡県で23人確認されています。

国立感染症研究所によりますと、患者数は2014年は200人程度でしたが、ここ10年ほどで急激に増加。去年は941人で過去最多でした。今年は過去最多だった去年を上回るペースで増加していて、前年同時期の2.8倍となっています。

小児が多く感染するA群溶血性レンサ球菌（A群溶連菌）感染症とは区別されています。

●原因と感染経路●

実際の感染経路は明らかになっていない部分が多いですが、傷口や粘膜から、通常は菌の存在しない筋肉、脂肪組織や血液にレンサ球菌が侵入することによって病気を起こすと言われています。

●症状●

最初に手足の強い痛みがみられることが多く、続いて発熱や悪寒、筋肉痛などの**インフルエンザに似た症状が現れます**。また、めまいや錯乱状態を伴うことがあります。症状が進行すると、筋肉や脂肪における炎症、呼吸障害や意識障害が進行して死に至る場合もあります。疑わしい症状が現れた場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。

●予防のポイント●

感染経路は明らかになっていない部分が多いですが、うがいや手洗い等の一般的な感染症予防に努める

とともに、ケガをした際の傷口はよく洗い、消毒などを実施することで清潔に保ちましょう。

